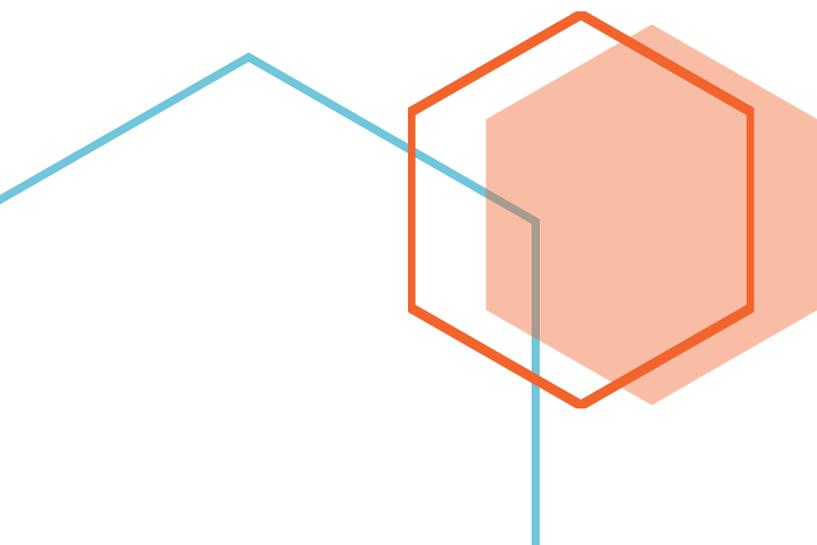




教授システム学に基づく大学教員の教育実践力開発拠点

拠点が提供するコンテンツ紹介用パンフレット

本拠点が紹介するコンテンツを紹介しています。





拠点が提供するコンテンツ一覧

コンテンツ① インストラクショナル・デザイン公開講座

大学教員が企業内教育実践者等の異業種間教育担当者交流の場で「授業内容、授業方法の改善と向上」に共通するインストラクショナル・デザインの基礎を学ぶセミナーを開催しています。

コンテンツ② ID ポータル

ID・オンライン教育と関連するイベント案内の他、有益な情報（論文・記事等）の紹介を行うウェブサイト「ID ポータル」を提供しています。

コンテンツ③ 公開科目

熊本大学大学院 社会文化科学教育部 教授システム学専攻で提供されている博士前期課程・博士後期課程向けの科目の一部を、誰でも閲覧できるように Open Educational Resource (OER) として公開しています。

コンテンツ④ FD 研修講師・大学教育設計コンサルタント派遣

本拠点の運営主体（教授システム学研究センター）に所属する教員が、FD 研修講師・大学教育設計コンサルタントとして、各大学・企業のニーズに応じた研修やコンサルテーションを提供しています。

コンテンツ⑤ 大学教員・志望者向け「教育改善スキル修得オンラインプログラム」

現役の大学教員、大学教員としての就職を希望する大学院生を対象として、授業設計について学習できる履修証明プログラム「教育改善スキル修得オンラインプログラム（科目デザイン編）」、および、自律した学習者を育成する方法を学習できる「教育改善スキル修得オンラインプログラム（自律学習支援編）」を提供しています。

コンテンツ⑥ FD 担当教職員向け「FD 活動デザイン講座」

FD 担当教職員向けの新たな履修証明プログラムとして「FD 活動デザイン講座」（無料版・有料版）を提供しています。

コンテンツ⑦ ポストコロナの教育と FD を強化するラーニングテクノロジー活用ワークショップ

ラーニングテクノロジーと関連するワークショップを提供しています。



拠点の概要

拠点の名称：教授システム学に基づく大学教員の教育実践力開発拠点

共同利用分野：大学の職員（教員を含む）の組織的な研修等の実施機関

認定期間：平成 30 年度から令和 4 年度

目的・概要

大学・短大など高等教育機関の教員及び将来的にそれらの機関の教員を目指す大学院生、ポスドク等の若手研究者を対象に、効果的かつ効率的な教育を系統的に設計・開発するための方法論であるインストラクショナル・デザインを基盤とした教授システム学（Instructional Systems）の修得を通して、教育・授業設計、カリキュラム開発等の教授活動、学生指導・支援を含む教育マネジメント、教学 IR やラーニングアナリティクスに必要とされるデータサイエンス分野の基本的分析手法など教員に求められる職能の開発と教育実践力を身に付けるための各種 F D プログラムを提供します。令和 2 年度末に発出した「オンライン教育の新たなモデルの構築に向けた提言」および「F D 活動の客観的な成果分析の枠組みについての提言」に基づいて、F D 担当教職員向けの新たな「F D 活動デザイン講座」を設計・開発・公開します。

これらの取組により、高等教育の抜本的改革を担うことができる人材の基盤となる職能開発の実績を他大学に普及・拡大し、もって高等教育機関における教育研究の質の向上及びその保証に寄与します。

尚、本事業では、次の 7 つの取組を柱に、教授する力のうちの授業実践力（デリバリ）に対するノウハウを身に付けることに留まらず、デリバリの基盤となる授業設計力（デザイン）あるいはカリキュラム設計力を身に付けるための授業設計、教育評価、授業改善のための分析手法、改善手法等を体系化したオンライン教材、ワークショップ等の開発・提供を行います。



インストラクショナル・デザイン公開講座

<http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp/syogaigakushu/koukai/id/>

本拠点では、大学教員が企業内教育実践者等の異業種間教育担当者交流の場で「授業内容、授業方法の改善と向上」に共通するインストラクショナル・デザインの基礎を学ぶセミナーを開催しています。

インストラクショナルデザイン公開講座とは

急に教える立場になって、どう教えてよいかわからない、これまで先輩や前任者のやり方を見よう見まねで教育をしてきたが本当に効果的な教育といえるか悩んでいる等、業界を問わず教育にお悩みの方は多いのではないのでしょうか。
そんなあなたにおすすめなのが本講座で紹介するインストラクショナルデザイン（以下、ID）です。IDとは、教育・研修をより効果的・効率的・魅力的にするための方法論です。
IDを身につければ、教育のお悩みを解決する道具を手に入れることができます。

	概要	実施時期	募集案内	対象	学習形態	料金	発行物
入門編	eラーニングでの自己学習や受講者同士のワークを通じてIDの基礎を学習	毎年秋頃	RCiS ウェブサイト で募集案内を掲載	制限なし * 教育改善に興味がある方	オンラインでの事前・事後学習と会場での対面学習 * 2020年度と2021年度は対面学習もオンラインで開催	7000円	デジタルバッジ 参加証明書
応用編	入門編で学んだIDの基礎知識・スキルをベースに、参加者同士のワークでIDを使う練習を行う	毎年冬頃		入門編の修了者			



<入門編の概要>

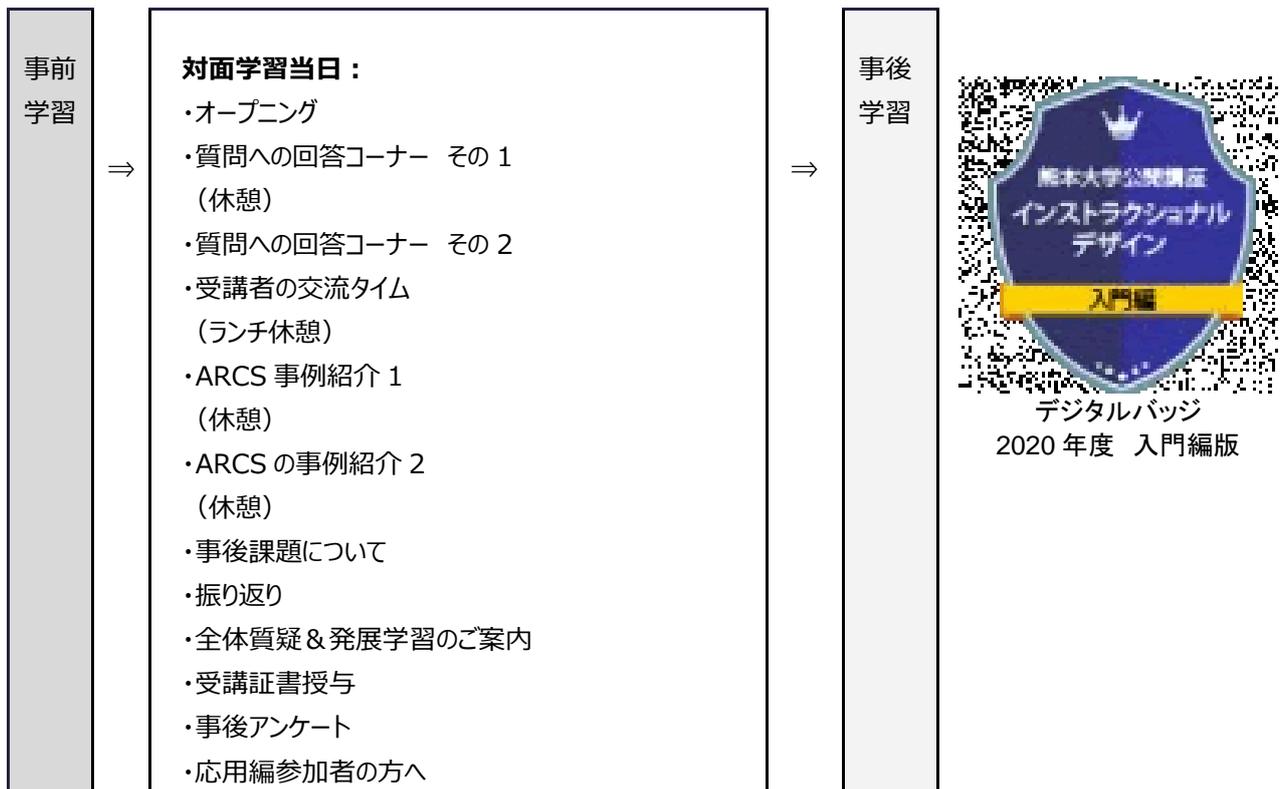
講師：都竹茂樹、平岡齊士、天野慧

学習目標：

- (1) ID の基礎用語 10 個がどのような場面でどのように活用できるかを例示できる（知的技能）
- (2) ARCS モデルの視点から、教育事例の課題点を指摘し、適切な改善方法を選ぶことができる（知的技能）

概要：

e ラーニングでの自己学習や受講者同士のワークを通じて ID10 の基礎用語を学んでいきます。また、Zoom を使用したワークショップでは、10 個の基礎用語の中から ARCS モデルに絞り、講師が提示する教育事例に対する改善策の検討を受講者同士ワークで行っていきます。ID の道具をどのような場面でどのように活用できるか提示できるようにすることを入門編の目標としています。





<応用編の概要>

講師：鈴木克明

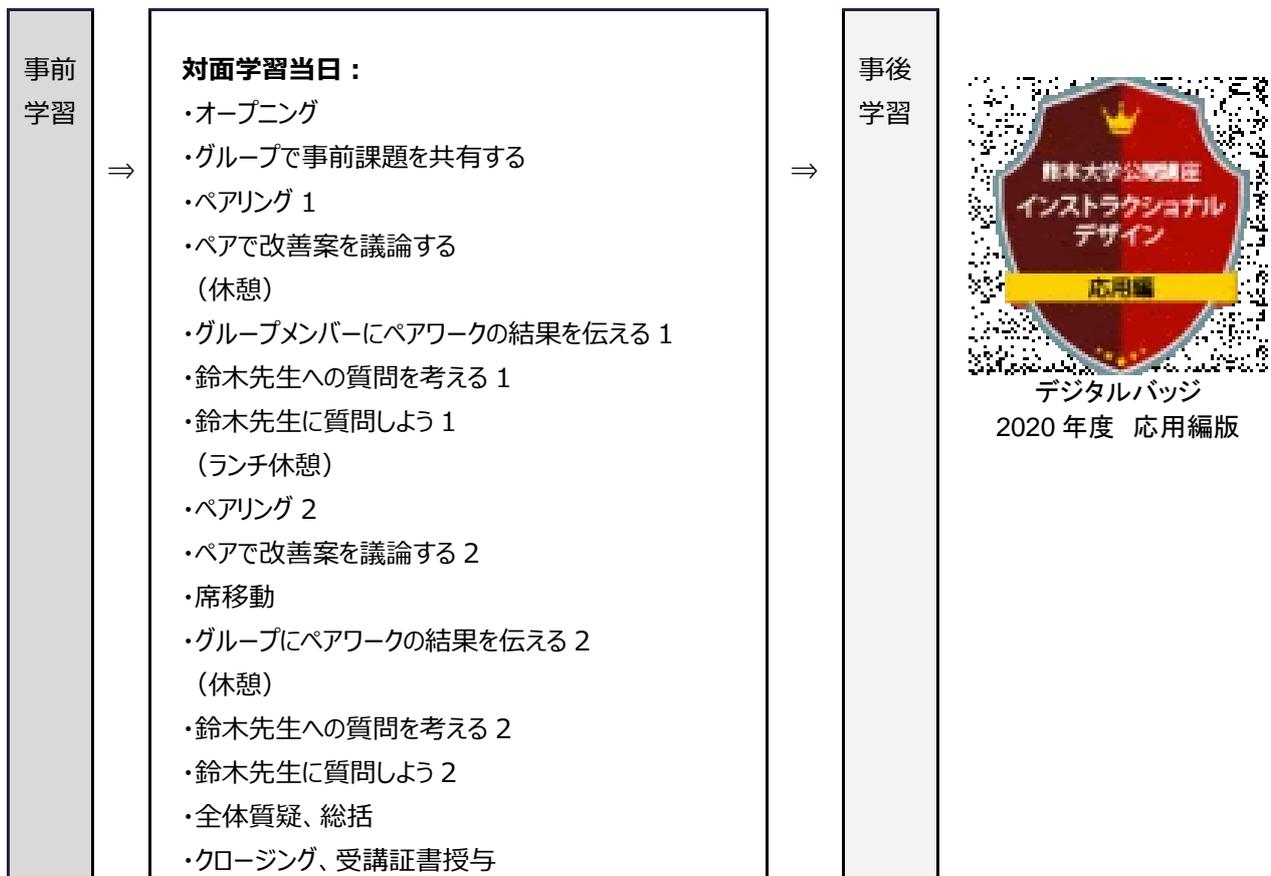
学習目標：

- ・ID の基礎用語 10 個のうち 1 つ以上を応用して、自分の教育事例の改善案を提示できる
(知的技能)

概要：

入門編で学んだ ID 基礎用語をベースに、応用編では参加者同士のワークを中心に構成し、ID を使う練習を徹底的に行います。みなさんが取り組まれている教育事例について、ID を用いて改善案を提示できることを応用編の目標としています。

* 昨年度までに入門編の事後テストに合格し修了認定された方や、他の場で ID を学習し入門編の学習目標を達成している方等は、応用編から受講可能です。ただし、その際には、別途ご案内する応用編の前提課題へ取り組み、合格基準を満たす必要があります。





ID ポータル

<http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp/syogaigakushu/koukai/id/>

本拠点では、ID・オンライン教育と関連するイベント案内の他、
有益な情報（論文・記事等）の紹介を行うウェブサイト「ID ポータル」を提供しています。

The screenshot shows the ID Portal website interface. At the top, there is a navigation bar with links for '熊本大学', '大学院社会文化科学教育部', and '教授システム学専攻'. A search bar is also present. Below the navigation bar, there is a main heading 'IDポータルへようこそ!' followed by a paragraph explaining the site's purpose: 'このサイトは、ID (Instructional Design : インストラクショナル・デザイン) の学習者がIDについて学ぶことを支援するために構築しました。初めてのの方は、[本サイトについて](#)をお読みください。' To the right, there is a 'リンク' section featuring a profile picture of Professor Rikimasa Suzuki and a link to his 'Webサイト' with the description: 'IDに関する著書や経歴、直近のスケジュールを掲載しています。' Below this, there is a '直近イベント情報' section listing two events: '2021年8月1日(日)~2021年12月31日(金) 日本医療教授システム学会 医療IDセミナー2021@ハイブリッド開催予定' and '2021年8月2日(月)~2021年9月30日(木)'.

コンテンツ項目	概要	実施時期	募集案内	対象	学習形態	料金	発行物
イベント	ID と関連するイベントを配信	常時アクセス可	—	誰でも可	ウェブサイト を閲覧・利用	無料	—
文献紹介	ID と関連する文献を紹介						
ID マガジン	マガジン登録者に ID と関連する情報を配信						
お悩み解決 QandA	ID に基づいた悩みと対応案を掲載						
実力チェック	ID スキルをチェック可能						
作業支援ツール	教材設計マニュアル						
	学習設計マニュアル	書籍「学習設計マニュアル」に基づいた学習を設計する際に利用できるツールを提供					
	授業設計マニュアル	書籍「授業設計マニュアル」に基づいた授業を設計する際に利用できるツールを提供					
	研修設計マニュアル	書籍「研修設計マニュアル」に基づいた教材を設計する際に利用できるツールを提供					



公開科目

<https://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/outgoing/opencourses/>

本拠点では、熊本大学大学院 教授システム学専攻で提供している科目の一部を公開しています。

コンテンツ項目	概要	実施時期	募集案内	対象	学習形態	料金	発行物
公開科目	熊本大学大学院 教授システム学専攻で提供している科目を公開	常時アクセス可	—	誰でも可	ウェブサイトを閲覧・利用	無料	—



FD研修講師・大学教育設計コンサルタント派遣

本拠点では、教授システム学研究センターの教員を講師として派遣しています。

* 研修の形態につきましては、次ページの「講演型 FD 研修会を脱却するための研修モデル」をご参照ください。

* 派遣依頼フォームはこちら

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScL4NQYQIQqVkOOOp6j5vA_OhZ43IBBrpwP0Xb7q4ASIt03aHg/viewform

講師派遣依頼フォーム2021

教授システム学研究センターより講師派遣をご希望の場合、こちらにご記入ください。ご希望の講師、または、担当者より後日ご連絡いたします。

chikako.nagaoka.0219@gmail.com [アカウントを切り替える](#)

*必須

メールアドレス *

メールアドレス

コンテンツ項目	概要	実施時期	募集案内	対象	学習形態	料金	発行物
講師派遣	ニーズに応じて、教授システム学研究センターの教員を講師として派遣	随時	問い合わせフォームより相談	誰でも可	どのような形式（オンライン・対面）でも対応可能	依頼による	依頼による



<講演型 FD 研修会を脱却するための研修モデル>

講演型 FD 研修会を脱却するための研修モデルについてのご提案

本センターでは、これまでに FD 研修講師派遣を依頼頂いた際に、様々な形の研修を提言してきました。外部講師としての依頼を受け、講演をした後で、質疑応答の時間を最後に取り、という従来型のものもありましたが、他のやり方はどうでしょうか、という提案をした結果、それを受け入れていただき、効果が上がったケースもありました。これまでの経験をもとに類型化した研修モデルには、以下のようなものがありました。

外部講師講演型

重要だと思われるトピックの第一人者を招聘して行う FD。例えば、アクティブラーニング、パフォーマンス評価、オンライン授業など。講師によっては、新しいコンセプトを事例に即して知る機会になることもあるが、力量に依存するので、「お勉強」に留まり実際の授業改善には直結しない場合も散見される。講演の最後には質疑応答の時間を設ける場合もあるが、質問があまり活発に出ずに FD 担当者が困るケースも多い。

事前質問付外部講師講演型

外部講師を派遣する際に、事前に質問を受講予定者から募り、その回答を含めた講演にしてもらう。講演時間の半分程度を講演にあて、残りの時間を事前質問への回答にあててもらうのが効果的。ケースによっては、事前質問への回答を最初にしてから、まとめの講演というパターンがより講演を身近に感じられ、満足感を高めることもある。

事前資料付講演（反転授業型）

基本的な内容については事前に論文や講義ビデオで情報を得てもらい、その上で当日の講演に臨んでもらう。可能であれば、事前資料についての質問を事前にあるいは参集時に受付で出してもらう。講演時間は事前資料の内容についての質疑応答を中心に構成するか、ワークショップ的に例えば「事前資料の内容を今後の担当授業にどう応用するか」を検討する時間とする。担当科目でもこの形式（反転授業）を採用してもらう布石として学習者として体験してもらう意図も兼ねて行う。

講演型 + アクションプラン作成

次回にアクションプランをどう実現したかをシェアする会を設定・予告し、それまでに活用することに誘う。新しいコンセプトを導入した後で、個人あるいはグループ（担当科目やカリキュラムを共有する者同士）で、このコンセプトをどのように活用して授業を改善できそうかを検討・議論し、アクションプランを作成する（次回の FD まで、今年度中、2 - 3 年後までには、など）。

事前課題 + アクションプラン作成

FD 開始前に授業改善のヒントとなるような文章を全員が読んで、疑問点や自分の授業改善にどのように活用できそうかを検討した結果を持ち寄ってもらう方式。集まった時には疑問点を解消した後で、各自の検討結果を共有し、互いに気づいてなかった点を加えてアクションプランを作成して、次回につなげる。



まな板の鯉方式

これまでに様々な工夫をして授業改善に取り組んできた教員の事例を紹介してもらい、自分の授業で参考になる点（まねできそうな点）や更なる改善アイデアについて小グループで話し合い、授業提供者が持ち帰るお土産とする。例えば、ICT 活用法、遠隔授業構成法、学習意欲を高める方策などのテーマを設定し、関連する工夫を数例並べて検討するとさらに効果が高まる。

ワークシート形式

各自が担当する授業について共通のフォーマットを用いて現状分析し、改善の糸口を見つける方式。ARCS で学習意欲を向上する、大学の授業点検シートで出入口と方略をチェックするなど。ワークシートへの記入を事前課題として記入済みのものを持ち寄って議論中心に展開すると効率的になる。さらにアクションプラン作成と組み合わせることで次回につなげることも効果的。代表的な取り組みを次にまな板の鯉方式で共有することにつなげる前段階としての活用するもよい。

他のやり方

本センターでは、講師派遣に際して、その他にも有効だと思われるやり方を模索していきたいと考えています。遠慮なくご相談ください。



大学教員・志望者向け「教育改善スキル修得オンラインプログラム」

本拠点では、大学教員向けの履修証明プログラムを提供しています。

<科目デザイン編>

教育改善スキル修得オンラインプログラム（科目デザイン編）

アナウンスメント undefined

ホーム画面

初めてアクセスされた方へ

本教材へようこそ。まず、右のボタンをクリックして、このプログラムの学習の進め方を一緒に確認しましょう。

学習の進め方

モジュール1：大学教育に関する5つの物語

モジュール1では、高等教育に関する5つの物語を紹介し、次世代の大学についての考え方を説明します。これまでの大学の常識を改めて見直し、新しい大学のイメージについて議論しましょう。

アクセスする
アカウントなしで閲覧可能

モジュール2：認知的発達を促す授業方法

ナビゲーション

- ホーム画面へ戻る
- 進捗管理画面へ戻る
- 学習状況証明書を発行（無料ユーザー向け）
証明書はいつでも発行可能
- 学習状況証明書を発行（有料ユーザー向け）
有料ユーザーのみアクセス可能です。証明書はいつでも発行可能。

<自律学習支援編>

教育改善スキル修得オンラインプログラム（自律学習支援編）

日本語 (ja) ログイン

ホーム画面

初めてアクセスされた方へ

本教材へようこそ。まず、右のボタンをクリックして、このプログラムの学習の進め方を一緒に確認しましょう。

学習の進め方

モジュール1：学生が自分の学びと向き合うきっかけをつくる

モジュール1では、学生の自律学習を支援するための第一歩として、学生に自分の学びと向き合うきっかけをつくるための7つの提案をします。「大学での学び方」を教えるために、「自分の科目で何ができそうか」を考えてみましょう。

アクセスする
要ログイン

ナビゲーション

- ホーム画面へ戻る
- 進捗管理画面へ戻る

関連サイト

本プログラムは、熊本大学教授システム学研究中心が運営しています。

RCIS 教授システム学研究中心
Research Center for Instructional Systems



<科目デザイン編：コンテンツ概要>

コンテンツ項目	概要	実施時期	募集案内	対象	学習形態	料金	発行物	
科目デザイン編	無料版	大学の授業改善に役立つ知識・スキルを学習できる履修証明プログラム。現在、以下、4つのモジュールを公開中。	常時アクセス可	—	誰でも可	オンライン学習	無料	学習証明書 (電子版) デジタルバッジ
	有料版	モジュール1： 大学教育に関する5つの物語 モジュール2： 認知的発達を促す授業方法 モジュール3： 評価と単位認定の見直し モジュール4： 学習目標の高度化	5月・11月	RCiS ウェブサイトで募集案内を掲載	現役の大学教員もしくはは大学教員を目指す大学院生	オンラインでの事前・事後学習と会場での対面学習 *2020年度と2021年度は対面学習もオンラインで開催	60,000円	履修内容証明書 修了証明書 (電子版) デジタルバッジ
	団体版	無料版では上記4つのモジュールを学習可能。 有料版では上記4つのモジュールに加え、教員からのフィードバック・対面学習への参加が可能。	随時	メールにて個別相談	誰でも可	依頼による	依頼による	依頼による



<自律学習支援編：コンテンツ概要>

コンテンツ項目	概要	実施時期	募集案内	対象	学習形態	料金	発行物
自律学習支援編	無料版 大学の授業改善に役立つ知識・スキルを学習できる履修証明プログラム。現在、以下、4つのモジュールを公開中。 モジュール1:	常時アクセス可	—	誰でも可	オンライン学習	無料	学習証明書(電子版) デジタルバッジ
	有料版 学生が自分の学びと向き合うきっかけをつくる モジュール2: 自学自習を促す ICT 活用 モジュール3: 学びの場を作る(学びの場の提供) モジュール4: 学生を自己調整学習者に育てる 無料版では上記4つのモジュールを学習可能。	10月	RCiS ウェブサイトで募集案内を掲載	現役の大学教員もしくは大学教員を目指す大学院生 *科目デザイン編 バッジ取得者もしくは有料版修了者	オンラインでの事前・事後学習と会場での対面学習 *2020年度と2021年度は対面学習もオンラインで開催	60,000円	履修内容証明書 修了証明書(電子版) デジタルバッジ
	団体版 有料版では上記4つのモジュールに加え、教員からのフィードバック・対面学習への参加が可能。	随時	メールにて個別相談	誰でも可	依頼による	依頼による	依頼による



FD 担当教職員向け「FD 活動デザイン講座」

本拠点では、FD 担当教職員向けの履修証明プログラムを提供しています。

<FD 活動デザイン編：トップ画面>

日本語 (ja) ログイン

教育改善スキル修得オンラインプログラム (FD活動デザイン編)

アナウンスメント 表示するニュースアイテムはありません。

ホーム画面

初めてアクセスされた方へ

本教材へようこそ。まず、右のボタンをクリックして、このプログラムの学習の進め方を一緒に確認しましょう。

学習の進め方

モジュール1：FDはこのままでよいのか（大学のワンランクアップに向けて）

モジュール1では、「問題提起：IDはFDの基礎になるか？」や「FDの義務化はどのように始まり何をもたらしたか」といった観点から、FDに関する5つの物語を学習します。

アクセスする
アカウントなしで閲覧可能

ナビゲーション

- ホーム画面へ戻る
- 進捗管理画面へ戻る
- 学習状況証明書を発行
(無料ユーザー向け)
証明書はいつでも発行可能
- 学習状況証明書を発行
(有料ユーザー向け)
有料ユーザーのみ



<FD 活動デザイン編：コンテンツ概要>

コンテンツ項目	概要	実施時期	募集案内	対象	学習形態	料金	発行物
FD 活動デザイン編 無料版	<p>FD 担当者が FD 活動を行う上で役立つ知識・スキルを学習できる履修証明プログラム。現在、以下、4つのモジュールを公開中。</p> <p>モジュール1： FD はこのままでよいのか（大学のワンランクアップに向けて）</p> <p>モジュール2： FD 活動の KPI(評価指標)：FD 活動をアピールするための7つの提案</p> <p>モジュール3： FD 研修のバージョンアップ：年1回の講演会を超えるための7つの提案</p> <p>モジュール4： ラーニングコモンズの活動を設計する：授業以外の学習支援の7つの提案</p> <p>有料版では上記4つのモジュールに加え、教員からのフィードバック・対面学習への参加が可能。</p>	随時	—	誰でも可	オンライン学習	無料	学習証明書（電子版）デジタルバッジ



ポストコロナの教育とFDを強化する ラーニングテクノロジー活用ワークショップ

本拠点では、データマイニングやチャットボット、AR/VR、ラーニングアナリティクスといった最新のラーニングテクノロジーを学習するワークショップを開催しています。

コンテンツ項目	概要	実施時期	募集案内	対象	学習形態	料金	発行物
セミナー	データマイニングやチャットボット、AR/VR、ラーニングアナリティクスといった最新のラーニングテクノロジーを学習するワークショップを開催	随時	RCiS ウェブサイト で募集案内を掲載 *セミナー等の共催を希望する場合は、メールにて個別相談	誰でも可	オンラインで配信	無料	—